

## 居 眠 り 遍 路

このごろでは難儀な札所寺院にケーブルカーやロープウエーが開通し、誰でも楽に登ることができるようになりました。車中で眠っているあいだに札所に到着してしまいます。お遍路さんは運転手に起こされ、あわてて車から降りて境内を歩くという始末です。これを「居眠り遍路」と呼びます。

また、新四国霊場は範囲が狭いものですから、一日で三十ヶ寺ほどを急いでお参りしなければなりません。一卷の般若心経をお唱えするのももどかしく、お賽銭を遠くから投げて片手合掌にて次の札所へ走り去ります。これを「銭形遍路」といいます。

かつてヘリコプターに乗って札所めぐりをされた遍路さんが話題になりました。ヘリコプターは寺院の上空で静止し、お参りがすめば次の札所へ移るという旅です。ご本尊さまが上を仰ぎ、参拝者が下を眺めるという状態です。ご本尊さまもビックリ仰天！ 天を仰いで口がふさがらず、「それはオマイリではなく、オマワリだよ」と、つぶやかれたそうです。これは「大名遍路」です。

巡礼には観光の楽しさも含まれています。長旅になればなるほど、この傾向は強くなるようです。奈良の七大寺めぐりでは、昔はその周辺に遊郭が随所にありました。現在でも西国三十三観音霊場の近辺にその面影が残っています。また、文字の読めない庶民のあいだでは「巡礼歌」を詠いながら旅のつらさを癒していたようです。

昔の人たちは楽しみながら、苦しみながら、遊びながら巡礼をしていました。このような気分は今日のバス遍路にも受け継がれています。よくよく考えてみますと、観光のなかには巡礼のような厳粛さは入りこむ余地がありませんが、しかし巡礼には陽気な観光の気分も同時に味わうことができます。それゆえに、巡礼は贅沢な旅といえそうです。

遍路さんは、数珠、輪袈裟、金剛杖、白衣、納経帳はきちんと揃えておきたいものです。最初は軽装でお参りしていても、多くの方は途中から気づき、正式な遍路スタイルになるようです。背広や軽装では違和感があるからです。遍路の白衣は心を落ち着かせ、四国の山野にとけこんでいきます。